

「未来を拓いた万世大路、4代目の開通を迎える！」

(特別寄稿) 歴史の道土木遺産 万世大路保存会 副会長 梅津 幸保 氏



万世大路保存会
の梅津副会長
と共々万世大
路の歴史と活
用についてお
話させていただきます

はじめに、万世大路(ばんせいだいろ)は、明治15(1882)年に明治天皇が命名した道路名です。それから昭和12年の大改築、昭和41年の冬季交通可能な現国道13号栗子ハイウェイ開通という経過をたどっています。平成26年3月高速道路の栗子トンネルが貫通し、平成29年開通の予定で工事が順調に進んでいます。米沢市、山形県の東の玄関口として4代目の道路となります。万世大路は米沢市相生橋西端から福島市万世町までの約48キロメートルを言います。

“万世大路の歴史”
明治9年大山形県が誕生し、初代県令に三島通庸が就任しました。県令は、山形県は3方が山に囲まれており陸の孤島になっている。隧道を掘り橋を架け道路の整備が一番と土木県令の名の通り活躍しました。東の玄関口を開鑿するには栗子山に隧道を掘るしかないと明治9年から14年の5年の歳月をかけ、完成しました。明治14年10月3日東北御巡幸の明治天皇をお迎えし開通式が挙行されました。そして同15年1月に明治天皇から、道路が良く整備されているとお言葉とともに、「この道路を万世大路と命名されました。これは経書の「万世永頼惟汝功」から引用されたものです。荷馬車が通れる道路となり、物資の輸送はもとより文化の交流が進められました。しかし明治32年奥羽南線福島米沢間の鉄道が完成し、輸送は鉄道に変わりました。明治14年から31年まで賑やかだった道路沿線の宿場はすたれてしまいました。昭和に入り自動車普及すると旧栗子隧道は自動車を通れる道に大改築されました。昭和8年から12年までかかり完成しましたが冬期間は通れませんでした。昭和36年になって新ルートによる栗子ハイウェイの構想ができ、昭和41年5月29日現国道が開通しました。現在は東北中央自動車道構想が進み、平成26年

3月22日東北最長の8.972メートルのトンネルが貫通しました。

“保存整備と散策活動”
平成24年10月6日、万世大路は明治昭和期の先端土木技術を駆使し、山形・福島両県の物流並びに人の交流と絆を育んだ歴史的産業遺産として選奨土木遺産に認定されました(日本土木学会)。この日、置賜総合支庁において認定フォーラムが行われ、山形・福島両県、米沢市、福島市、万世大路の保存会、研究会、関係団体など200名ほどが参加しました。また翌年10月26日福島市こむこむわいわいホールでも同フォーラムが開催され、両県の交流が図られました。

さらに25年7月13日には国道13号記念碑公園内(万世町刈安)に認定銘板を設置し、国、県、市、関係者70名程で除幕式を行いました。この公園は平成2年に開園されており、旧栗子街道道に設置されていた駐轡の碑、栗子神社碑、改築記念碑などが集められており、当時の様子が一目でわかるようになっていっています。

万世ふるさとづくり委員会では、平成24年度に石碑等の解説を付けた標柱を設置しました。また明治の栗子隧道の手掘りの様子がわかる岩



万世大路散策会の皆さん(保存整備と散策活動・万世コミュニティセンターと保存会共催)



万世大路記念碑公園(万世刈安地内)標柱除幕式の様子



右側が明治の隧道口、左側が昭和のトンネル口

盤のレブリカも設置されており、当時の難工事が伝わってきます。万世大路保存会では、万世地区全戸から会費をいただいております。散策路の草刈りや倒木処理、年2回の会報発行、散策事業等を実施しております。

“土木遺産と交流活動”
土木遺産として認定いただいた万世大路は明治のトンネルとしては最長の876メートルもありますが、現在は落盤で通過したり内部に入ったりはできません。

散策では自然の美しさや明治昭和の土木技術の素晴らしさを満喫していただいております。一番の圧巻は、栗子隧道の米沢側に明治の隧道口と昭和のトンネル口が2つ並んでいることです。全国にもこのような光景はありません。今後この万世大路を愉しんでいただき交流するポイントとしては、構築物や植物動物を見て触れて感じてもらおう、被写体として芸術的に写真やスケッチをしてみよう、体力づくりにハイキングや探検を試みる、当時の歴史背景や街道を検証する、三島県令や工事担当者の努力と知恵や技術力を評価するなどいろいろな角度からアプローチしていきたいと思っています。

この土木遺産を活用して全国に世界に交流の輪を広げていきたいと思っています。皆様のご指導ご協力をどうぞ宜しくお願いいたします。

『私とMOT』 シリーズ編 MOT五期生 リコーインダストリー(株) 田村 実 氏



RI第一事業センター
(東北事業所:宮城)
のオフィスにて、現在
はリコーインダストリー
一社事業改革CRWP
強化支援室生産改革
1Gで業務に従事。

機関紙の記事をお願いされた時に、過去の記事を見させて頂くと、錚錚たる方々が記事を書かれておられたので、何度もお断りさせて頂いておりましたが、今回 根負けして書かせて頂くことに致しました。

私自身は、入学当時、社会人学生というわけではありませんでしたので、学習する時間は沢山取れました。しかしながら、2年で卒業できず、半年間延長して何とか卒業できた人間ですので、劣等生だったと言えます。そのため、あまり素晴らしいことは書けません。当時の私の立場を踏まえ、次の2つの視点で書かせて頂きます。

一つ目は、社会人学生の視点ではなく、社会人大学に入学した学卒の視点で書くこと。

二つ目は、在学中にお世話になった先生方、諸先輩方への感謝をこめて、卒業後の近況報告を多めに書くこと。以上の視点で書かせて頂きましたので、宜しくお願致します。

①入学のきっかけ

私は、当時在職していた仕事を辞めての入学になります。会社の休日と講義の日程が合わなかったのと、通学距離を考えての退職でしたが、今ではずいぶん思い切った事をしたなと思います。

入学前は8年間、機械加工のオペレーターの業務を行っておりました。同じ作業の繰り返しの中で、もう一度勉強をし直したいという気持ちが生え、在職中に通信制の大学に通いました。

通信制の大学を卒業した時に物足りなさを感じ、次の目標を探していたところ、山形大学で社会人大学院を開設していることを知り、勢いそのまま入学願書を提出しました。タイミングもあるのかもしれませんが、入学できたのは運が良かったのだと思います。

②在学中の思い出

在学中は、論文を書くということに大変苦労したことが思い出のほとんどを占めています。冒頭にも

記述しておりますが、私は卒業を半年間延長しておりますが、その主な原因は、通信制の大学で論文を書いていなかったことが挙げられます(必須ではなかった)。論文自体を良く知らなかったため、数多く論文を読むことから始めました。学会登録を2つ行い、山大的小白川キャンパスで学会誌の検索をしてコピーを集め、希望のものが無ければ、CINIIで調べて、コピーを取り寄せたり、東北大にあれば足を伸ばしたりと、とにかく数をこなしました。

数をこなそうと思えば論文を集めて行くと、今度は未読の本が積み上がって行くのに気付きました。集めても読まなければ意味が無いので、速読法のトレーニングも平行して行いました。

数をこなした結果、家には教科書と漫画ぐらいしかなかった本棚が、封筒8個分の論文のコピーと約500冊の著書で埋まりました。読むスピードも1時間100ページはこなせる様になり、得意分野であれば1日で5冊読みきることも出来るようになりました。本を読む習慣をつけられた事が、財産の一つだと思っています。

在学中は、本当に多くの人に助けられて何とか卒業することが出来たと感じています。この場をお借りしまして、「指導頂いた先生方、一緒に学習する中でさまざまなアドバイスをくれた同期生の皆様、特に、在学中に仕事をしながら学習する機会を与えてくれた三期生の浅間様に、改めて感謝申し上げます。

③卒業後

卒業後は、東北リコー(現リコーインダストリー東北事業所)から内定を頂いておりましたが、入社時期が東北大震災と重なり、約2ヶ月待機期間という状態でした。元々山形のボランティアセンターに登録していたことと、これからお世話になる地域に貢献したいという思いから、待機期間中は、柴田町と亘理町のボランティアセンターでボランティアをしておりました。柴田町では主に瓦礫の撤去、亘理町では、柴田町からの派遣という形でボランティアセンターのスタッフを務めていました。約2週間少なめのおにぎりしか食べなかったためか5Kg程痩せましたが、貴重な体験だったと思います。就職後は、大まかに記載にしますと、経営企画部門を2年間、技術部門を1年間体験し、現在は生産企画分野の業務についております。

最初の2年間は経営企画室(略称)で業務を行っていました。役員の方の資料作りと、当時は会社統合(生産関連会社と設計会社の統合分割)の時期でもありましたので、特殊な業務も経験させて頂きました。



中国出張時、観光で訪れた
上海のテレビ塔前にて

会社統合後の3年目は、OM技術G(略称)への配属となり、複写機の新製品の立ち上げ業務を行っていました。主に生産ラインの構築を担当し、具体的には、生産レイアウトと物の流し方の検討、ライン構築計画の策定と実践(作業棚や治具の製作)、量産フォロー等を行いました。この時は、大学院で学習した内容を活かす事ができたと思います。

4年目の現在は、RWP強化支援室(略称)に所属しております。(※RWPとは、Rich Way Productionの略です。所謂、トヨタウェイやコマツウェイ等の内容のリコバーションで、それを生産に当てはめたものになります。昨年の下期に小冊子としてまとめられ、リコーグループ内で配布されています。)現在の業務はあまり詳しくは書けませんが、概要だけ記載しますと、技能伝承をテーマとした提案になります。形が無く明確な解決策のあるものでもないと思いますので苦勞もありませんが、横串機能として、さまざまな部門の意見を聞くことができ、やりがいのある毎日です。

ここでは、大学院時代に学習したロジカルシンキングやMECEの考え方を思い出し、役立てながら業務に励んでおります。

④後輩の皆様へ

後輩の皆様へのメッセージは、在学中の立場から卒業の後輩の方へのメッセージとして書かせて頂きます。

当たり前のような事ではあります。一年間の目標を設定し、計画を立てて学習することをオススメします。目標を立てる際には、是非、3年後や5年後の目標も一緒に立てておくこと、実施しないといけない事が明確になりやすい、モチベーションの維持に繋がりますので良いと思います。また、実体験から記載しますと、目標は高い方が効果があります(学生時代に目標を低く設定しすぎて、「指導頂いたのも今では良い思い出です。')。最後に、皆様の学生生活が実りあるものでありますように祈念しまして、結びとさせて頂きます。

平成26年度9月修了生学位記授与式が行われました。



ものづくり技術経営学専攻(MOT)と
うほくMITRAIコース(留学生コース)の
平成26年度9月修了生の学位記授与式が
9月30日(火)に行われました。
当日は兒玉専攻長、綾部准教授、仁科准
教授、柗准教授、黒田三佳講師のご出席に
より厳かななかに行われ行なわれました。

栄えあるご卒業を迎えられた皆さんは、
写真前列の左から、何 可人さん、銭 勇
さん、李 澤桐さん、ファン・タインニヤン
さんです。

お陰様で4名とも卒業後の就職先は決
定しております(県内企業含む)。
機会がありましたら、是非卒業後も母校
に顔を出して下さい。
どうぞ2年間の学びと体験を活かし実
社会で頑張ってください。
皆さんの、今後のご活躍をご祈念申し上
げます!

平成26年度10月入学の皆さんをご紹介します。



「とうほくMITRAIコース」へ入学の、写真右からアハタ・ヴァレリアノ・イベル・フェルナンドさん(国籍:ボリビア)、ウアンカ・アダリッド・ケルカさん(ボリビア)、朱 晨迪さん(国籍:中国)、サパタ・ラウラ・ホセ・ルイスさん(ボリビア)、アニャグアジャ・エドウィン・カプチャさん(ボリビア)です。

「価値創成コース」へ入学の、写真右から武田 哲さん、安倍 憲人さんです。

平成26年10月入学生は、「価値創成コース」の2名、「とうほくMITRAIコース」の5名、合計7名の方が入学されました。



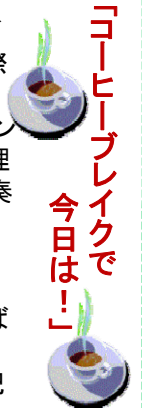
<MOT留学生 南原小学校訪問記>

2014年12月18日、孫さん、羅さん、ダニエルさん、ルイスさん、リナさん、池田さんの6人が南原小学校にて国際理解の授業を5、6年生にして下さいました。

それぞれの国を紹介するクイズを交えた楽しいプレゼンテーションに小学生は夢中になり、中国、ボリビアへの理解を深めてくれました。ルイスさんによる民族楽器の演奏や小学生からのお礼の花笠音頭の披露、小学生からの質問は止まらないほど盛り上がりしました。

自分の国をきちんと理解し紹介できることのかっこよさを小学生は感じたようです。留学生が果たす役割は素晴らしいものですね! 感謝を込めて

黒田三佳(キャリア開発担当)記



「コーヒープレイクで
今日は!」

ラジオ深夜便 誕生日の花と短歌 365日

短歌とエッセー

鳥海昭子(編集:発行NHKサービスセンター)

夜中に目覚めたときは、枕元のラジオのスイッチを入れます。音楽を聞きながら、また眠りに落ちるのが自然の流れになりました。ラジオ深夜便も、いつの間にか25年も続いていると言っていたのが耳に残っております。ラジオはNHKしか聞かなくなりましたが、色んな職業・年代の方の投稿に、慰められたり、勇気付けられたり、頷くことが何度もありました。朝起きて庭を見ると、雪を被った寒椿がちょっと色褪せてきてるのに気付きました。(編集委員A)

1月9日(金)「本誌の発行日」の花は、
「カンツバキ」ツバキ科です。

花言葉 : 紅一点

短歌 : 誰もいない 小公園の カンツバキ
紅一点の 無心の深さ



「産学交流夏季セミナー」に共催



恒例の米沢電機工業会主催による平成26年度「産学交流セミナー」が、平成26年8月28日(木)伝国の社にて開催されました。今年もY-MOTネットワークとして共催をさせていただきました。

- ・発表①「はかる・わかる一産学連携の糸口」
遠藤 昌敏氏(山大大学院理工学研究科准教授)
- ・発表②「新事業における産学官連携の取り組み」
桑原 晃氏(株ニューテックシンセイ代表取締役)
- ・発表③「プリンタブルエレクトロニクスについて」
福田 憲二郎氏(山大理工学研究科助教)
- ・発表④「有機EL照明事業への取り組み」
安房 善彰氏(株タカハタ電子商品企画部長)

産学からそれぞれ2名の発表があり、セミナー終了後は上杉城史苑にて懇親会が催され、有意義な交流の場となりました。

「第15回グローバル研究会」開催

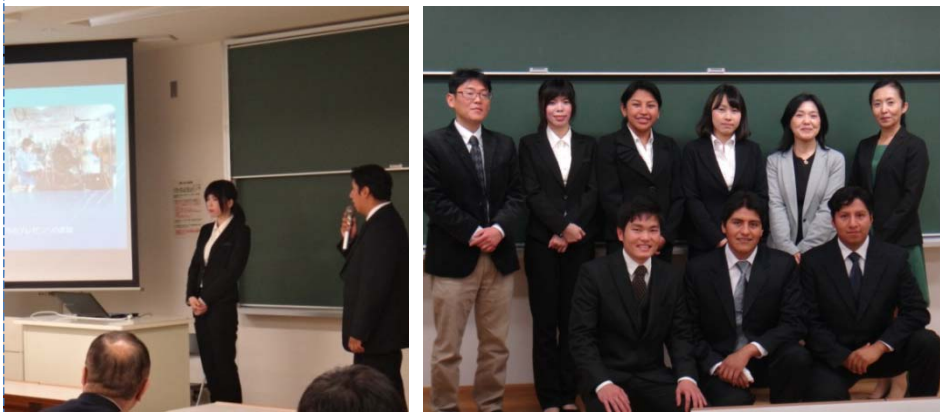


第15回を迎えたグローバル研究会が、平成26年7月7日(月)に街中サテライトにて開催されました。

今回は「ナスカ地上絵と現代のペルー社会」の演題で、山形大学人文学部 坂井正人教授にご講演を頂きました。坂井先生は2012年10月に山形大学がペルーに開設したナスカ研究所の副所長を勤められ、これまでに100点を越える新しい地上絵を発見するなど、ナスカ研究に関する世界的な第一人者です。

ナスカの地上絵に関する研究と、ペルーにおける考古学調査を通じた経験を基に、現代のペルー社会について貴重なご報告を頂きました。当日は約40名のご参加を頂き、有意義な講演会となりました。

「平成26年度インターンシップ成果発表会」が開催されました



発表風景とインターンシップ発表者(前列3名と後列左から2人目～4人目の3名、の合計6名の皆さんでした。)

「とうほくMITRAIコース」平成26年度のインターンシップ成果発表会が、11月26日(金)工学部4号館114号室にて開催されました。インターンシップには、県内の企業3社・1団体に受け入れて頂き、6名の学生が参加致しました。

発表会当日は受け入れ先の関係者の方々にも多数のご出席を頂き、実習内容・成果・課題などの報告と質疑応答がなされました。尚、終了後に派遣学生、在校生(来年度派遣学生)、派遣先担当者、教員との意見交換会が行われました。受け入れ先の皆様には感謝申し上げます、有難うございました。

《編集後記》

新年おめでとうございます。会員及び関係者の皆様におかれましては、穏やかで明るいお正月を迎えられたこととお喜び申し上げます。

昨年を振り返ってみても、噴火や土砂災害など厳しい1年だったと思いますが、皆様にとってはどのような1年だったのでしょうか？

政治の一極化と経済の二極化、集团的自衛権、消費税増税、日銀の金融緩和、そして締めくくりは衆院選挙でした。進展しない原発問題も4年目を迎えますが、汚染水対策の見通しも立たず、今だに12万人を越える人々が避難生活を余儀なくされており、補償問題も長期化しております。沖縄の普天間の移設問題も解決の糸口が見えません。弱者にとっての負のスパイラル・貧富の差の拡大、膨大な国の借金等々、今の世は何を目指しているのでしょうか？また忘れていけないのは、今年は終戦から七十年目を迎えることです。尊い犠牲の上に築かれた七十年間の平和を守り、子供達に明るい未来をもたらすためには何をすべきかを真剣に考えることです。

＜編集委員一同＞

《MOT事務局便り》

MOT事務局より、大学の動きやMOT専攻に関わる情報をお知らせ致します。

平成27年3月修了予定者修士学位論文公聴会

平成27年2月21日(土)11時20分～16時45分(於・4号館中示範△)

平成25年10月入学生修士学位論文中間発表会

平成27年2月21日(土)9時00分～11時10分(於・同場所)

平成27年4月入学予定者は現在4名です。(社会人2名、留学生2名)尚、3月に実施予定の入学試験の合格者が追加になります。

MOT事務局